

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170300515		
法人名	社会福祉法人 みのり福祉会		
事業所名	インターグループホーム 羽衣 まとめ		
所在地	鳥取県倉吉市福守町407-12		
自己評価作成日	令和2年10月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来		
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地		
訪問調査日	令和2年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福祉の里内にあり、法人内の夏祭り、文化祭や保育園や隣接した母子寮との交流を行っています。地域との繋がりを大切に、多くの地域の方のご協力をいただきながら、ご利用者様の豊かな生活を目指しています。ご利用者様一人お一人の持てる力や意思を尊重した支援を心がけ、外出や毎日の活動を提供しています。今年度は引き続きバラ園、畑で作物を育て、収穫し、食す楽しみを支援をしています。個人の趣味を活かした行事を開催し、今までの価値観や生活の楽しみを継続してもらるように取り組んでいます。ご利用者様はもちろんのこと、職員に体調管理や行動の確認を行い、今年度は特に感染症予防対策に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当法人の福祉施設が多数立地している「福祉の里」にあり、静かな環境である。コロナ禍の今年は、地域との関わりを自粛や中止となったが、文化祭で子ども神輿が玄関まで来てくれたり、ホーム内でパンや豚汁作りをしたり、ミニ運動会を行なった。秋祭ではマジック釣りをして、昼食に焼いて食べるなど、楽しく過ごしている。敷地内にはバラや季節の花が多数植えてあり、散歩コースとなっている。介護リフトとスライディングボードの福祉用具を導入し、安全安楽な移動動作ができるようになった。コロナ禍において、法人本部の指示による感染症予防対策を職員全員で取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

★努力している点

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝事業所理念を唱和を継続している。また各、フロアごとに1年間の目標を見えやすく掲示し、毎日意識して実践に繋げている。	法人全体の理念をふまえた、事業所の理念を掲げ、毎朝の申し送り時に唱和をしている。フロアごとに目標を作り、職員の意識づけに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は、法人主体の福祉の里夏祭りや秋の文化祭で交流を持っている。地域のサロンからハンドマッサージのボランティア、草取りのボランティアの受け入れを行っているが、現在は感染症予防のため中止している。	例年だと地域とのつながりを大事にしながら行事を行っているが、コロナ禍の今年は自粛して、行っていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の認知症理解の為に絵本教室にアドバイザーとして参加したり、事業体験ボランティアの受け入れ募集をおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催していたが、現在は感染症予防のため報告書のみ関係機関等に送付している。施設内での活動報告やヒヤリハット等の報告を行っている。	運営推進会議には、地区長・民生委員・市長寿社会課・包括支援センター・家族・利用者代表が参加して、2ヶ月に一度開催している。コロナ禍の3月からは活動内容等の報告書を送付だけにして	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	1か月に1度市役所から介護相談員の訪問を受け入れていたが、現在は感染症予防のため受け入れを中止している。にっこりの会や本人ミーティングへの参加を行い、市との関係性築くよう心掛けている。	毎月、市の介護相談員を受け入れ、対応等の相談助言や情報を提供してもらっているが、今は中止している。若年認知症の人と家族のつどい「にっこりの会」と連携し、行事に家族と参加している利用者もいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の年間勉強会の中に毎年組み込んでいる。また、外部研修にも参加し、最新の情報を取り入れ職員会議の時に報告している。身体拘束廃止委員での話し合いも定期的に行っている。	法人内で身体拘束廃止委員会を開催しているが、コロナ禍の今年は、事業所毎に、不適切ケアやグレーゾーンについて話し合い、身体拘束をしないケアの実践に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の年間勉強会の中に毎年組み込んでいる。動画や事例などを用いて、わかりやすく、記憶に残る活きた勉強会になるよう工夫している。言葉使いについては目標にも掲げ、意識をしながらその都度話し合い、意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所の年間勉強会の中に毎年組み込んでいる。権利擁護についてのマニュアルを作成しておりいつでも閲覧できるようになっている。担当職員が自身で調べ、まとめた資料を用いて勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書と契約書をお渡しして必ず説明を行っている。不安や疑問がが無いか尋ね、納得していただいてから契約を結んでいる。遠方の方に関しては、電話連絡をこまめに行い、納得していただけるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しているが利用はない。カンファレンスや面会等に意見を伺っている。また、ご家族様を対象とした満足度調査を毎年実施しており、いただいた意見を運営に反映している。	家族と普段から意見を言いやすい関係を保つよう心がけている。年1回の法人全体の満足度アンケート調査や、カンファレンス前の電話での意見・要望等を運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務時間内や職員会で意見交換している。話しやすい環境、関係性を築くために一人一人意識してコミュニケーションをとるよう気を付けている。	★管理者は職員に日頃の思いを伝える「ありがとうノート」を作り、円滑な関係を築く努力をしている。フロア会議や職員会議で意見を聞いている。年1回個人面談は施設長としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特定処遇改善により有資格者の給与水準が向上した。法人で子育て支援を行っており、子育て中の職員も働きやすいよう、勤務調整を行っている。介護や育児に対して、必要時は調整を行い、職員個々が働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の内部研修は管理者・中堅職員・初任者等で開催されるので、現状に即した研修内容となっている。資格取得に向けての勤務調整等を行い、職員を育成し、資質向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の相互研修に参加している。研修最終日には、ケアの悩み等を話し合い、お互いがどう支援しているかを理解し、質の向上につなげている。認知症の絵本教室では、多数の同業者が参加しており、意見交換の場となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行いご本人と話をさせてもらっている。入所されてからも、以前の施設へ遊びに行くなどして、安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはホーム見学をしていただき施設の雰囲気を感じていただいている。どんなことに困っておられるのか、要望などに耳を傾け、話を聞くようにしている。また、入所までの苦勞をねぎらうように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、申し込み時に必要であれば、他のサービスの提案ができるように他施設のパンフレット等を用意し、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までできていたことをアセスメントし、ご本人の能力を維持してもらえるような活動を提供している。掃除機がけやお盆ふき、洗濯物干しなど生活に必要な活動を支援することで、介護される側としてではなく、ご本人が生活の主体となって動いてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来所された時や、カンファレンス時には心身の状態を近況報告している。状態に変化があった時はご家族の希望をお聞きし共に支援できるように努めている。通院支援や散髪外出などでご家族様にご協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り、今までかかりつけの病院を受診したり、以前から参加されていたにっこりの会へ出かけていただけるようご家族と協力し支援している。顔なじみの方とパソコンで繋がり、会話を持てるように支援している。	感染予防対策をしながら、かかりつけ医への受診や、馴染みの理髪店へ行ったり、若年認知症のひとと家族のつどいへ参加する事などを支援している。電話やパソコンの、画面での会話などで、関係継続できるよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルにも配慮し、孤立しないように支援している。お互いが関わり合いを持てるよう同じ場所での家事活動や作品づくりなどの活動を提供し、共に支えあえる関係作りに務めている。必要時は席替えや場所を変えるなどの工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院やご自宅に帰られた後の連絡・相談等の支援を行っている。退所後行き場所に困られないように柔軟に対応している。退所後、別の事業所へ行き、経過をみさせていただくこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から本人の希望が聞き取れるよう努めている。カンファレンス時には家族の意向も把握しながら、本人本位の支援に努めている。また、月1回のフロア会議で話し合い、ご本人様の思いの把握に努めている。	本人や家族から、生活歴や暮らし方、希望等を聞き取り、その情報を支援に活かしている。利用者が興味のあること、できそうなことを把握して実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の聞き取り時に本人、家族からの話を聞き、今までの生活状況を尊重し、できる限りサービスに反映させている。サービス評価表にわたしのことという欄があり、毎月の評価時に新しい情報や気づきを記載して把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送り等で一人ひとりの状態を把握し、情報共有している。気が付いたこと、変化があったことはケース記録に記載している。特記・引継ぎ事項の欄があり、全職員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一度のカンファレンスはご本人様、家族様と行っているが、現在は面会の制限を行っているため、ご家族には電話にて要望をお聞きしている。担当者より今の状態を説明し、医師の意見等も合わせて、より良いサービスが提供できるようケアプランを作成している。	毎月担当者を中心にモニタリングを行っている。家族の意向を電話で確認して同意を得た上で、主治医の意見を含めたカンファレンスをし、介護計画を作成している。★担当者は利用者の気持ちや思いをくみ取り、「わたしの思い」を施設独自の様式で、ケアプランの中に示している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況や変化等を記録に残し、朝、夕の申し送りで職員の情報共有をしている。また、ケアプランに対して担当者が実行記録評価表を記入し、1か月単位で評価し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、外泊支援、通院の支援など時間にとらわれずに、柔軟に対応している。なるべく希望に沿えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで長寿社会課、地域包括支援センター、民生児童委員、福守町の館長さんなどから情報をもらって活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者1人ひとりのかかりつけ医を把握し、受診時は職員、またはご家族が同行している。何かあれば主治医に連絡するとともにご家族にも連絡し、適切な医療が受けられるよう支援している。	定期的に主治医の訪問診療を受けている。緊急時や処置等も安心して相談できる関係である。家族とともにかかりつけ医に受診する利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師は配置していないので、利用者に変化があった場合法人内の看護師に連絡相談するか、主治医に相談している。また、月2回の訪問診療をしてもらい健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要物品を揃えたり、洗濯の支援を行っているため、その都度、情報を提供してもらっている。早期の退院となるよう、随時医療関係者に相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについてのマニュアルやご家族様へ対して説明文章、承諾書等を作成した。重度化へ向けて、体調に変化があった場合は、ご家族様へこまめに連絡を行い、情報を共有している。	利用者一人ひとりの重度化や体調の変化に応じた終末期の方針や対応策を検討し、同意書で確認している。主治医と家族、事業所がチームで取り組んでいる。昨年102歳の利用者の看取りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の事故マニュアルを元に勉強会を行っている。毎年1回は消防署に来てもらい、AEDの使い方、心肺蘇生法の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定、火災、水害、地震などを想定して、避難訓練を行っており、職員全員が参加できるようにしている。1年に一度は隣施設と共同の避難訓練を実施しており、非常時には協力体制が取れるようにしている。	定期的に、日中と夜間の想定で火災・地震等の避難訓練をしている。隣接施設と合同の訓練も行い、消防署と連携してAED使用方法や心肺蘇生法等の指導を受けて知識を習得している。	備蓄品のリストを作り、個数や各消費期限などわかるようにし、保管場所をわかりやすく整えることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについてはフロアー目標に入れている。声のトーンや言い方に気をつけるよう配慮している。接遇マニュアルを用いて、法人内研修に参加し、担当者から職員に周知している。	法人全体の接遇委員会があり、自己評価シートで、自分の対応を見直す機会を設けている。フロアー目標を掲げ、日々、尊厳をもって対応ができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が着たい服や、食べたいものなど話しやすい雰囲気作りをし、自己決定ができるように心がけている。うまく表現できない方は表情や行動を読み取るようにして、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を見たり、聞いたりしながらその方のペースに合わせている。ご本人の意向を優先し、声かけのタイミングや職員を交代してみたりと、工夫して支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に温かいおしぼりの提供を行い、清潔に過ごしていただけるよう気を付けている。ご家族の協力をいただきながら髪染め外出を支援したり、一緒に衣類を購入し、おしゃれを楽しめるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回のおまかせメニューを始め、日々の希望を聞いて献立の参考にしている。食材の下準備、片付けなどを一緒に行うことで、食事が楽しみの1つとなるよう支援している。お誕生日にはご利用者様の希望のメニューでお祝いをしている。	各フロアーの栄養管理担当者が毎月の献立を立てている。庭にある畑で収穫した野菜を食材にしたり、下準備を一緒にするなど食事が楽しみなものとなるよう工夫している。	メニュー作成や買い出し等の職員の負担が少なくなるよう、法人内のグループホーム全体で話し合い、調整してはどうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人に必要な水分量を計算し提供している。食事の栄養や形状についても、フロアー会議で嚥下状態を考えながら、食事形態の検討をしている。体調、病態にあわせた食事の提供を心がけている。毎月体重測定をして増減を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、ご自分でできない方はお手伝いしている。就寝時には、入れ歯洗浄剤を使用したり、口腔ウエットティッシュを使用することで、口腔内の清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して排泄パターンを知り、早めの声かけ、案内でパットの使用を減らすよう心がけている。	排泄チェック表を活用し、早めの声掛けで案内している。★福祉用具(介護リフト・スライディングボード等)を使用することにより、安全安楽にトイレでの排泄を支援でき、介助者の腰痛予防にもなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼食前にラジオ体操を取り入れたり、食物繊維の多い食品や牛乳、カスピ海ヨーグルトを摂ってもらうことで、便秘予防に取り組んでいる。腹部のマッサージで排泄を促す支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様のタイミングをみながら、声掛けを行ない、入浴を支援している。気分が乗らないようであれば、職員を交代したり、日にちを変えらることで無理のない支援を心がけている。入浴剤を使用し、香り見た目も楽しんでいただいている。	できるだけ本人の希望の時間に入れるようにし、週に2回は入浴支援している。介助者を代えたり日にちを変えたりするなど工夫し、無理のないよう努めている。	脱衣所の収納を工夫し、できるだけ介助しやすい空間となるように工夫してみてはどうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お好きな時間に自室に行って休んで頂いたり、ソファでゆったりとくつろいでいただいている。照明に配慮したり、日中に日光浴をしていただくなどして、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬剤情報が綴っており、いつでも確認が可能となっている。処方内容が変わったときは、引き継ぎをノートに記録し確認、把握できるように努めている。薬について、気になることがあれば、主治医や薬剤師に確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	制作意欲が強く、次々と作品を仕上げられるので、いつでも活動できるように道具等の準備を行っている。歌うことがお好きな方のため、音楽を流し、一緒に歌う時間を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は感染症予防のため外出を極力控えているが、入所前から参加されていたにこりの会へご家族とともに参加していただけるように支援を行っている。その他、自宅付近へのドライブ支援を行っている。	現在は、感染症予防のため、人の多い所・リスクの高い所への外出は控えているが、ドライブ外出したり、近所の散歩などは普段通り、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設預かりしているが、本人の希望を確認しながら、買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人用の携帯電話をお預かりしており、管理を行っている。いつでもご家族とお話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の温度・湿度計を確認しながら、換気や室温調節を行い、過ごしやすい空間づくりをしている。ロールカーテンを使用し日差しの調整や温度にも配慮している。各居室に加湿器を設置し、居室の湿度にも配慮している。手すり等の消毒をすることで清潔にも気を付けている。	共用空間は、換気に気を配りながら、加湿器等を使い温度・湿度調整を行っている。利用者の状況を見ながらソファの位置を変えている。天井・壁面飾りを利用者と共に作り、外出の機会が減っても季節を感じる事ができるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格や習慣を考慮し、食事の席やソファでの居場所を工夫している。仲の良い方同士と一緒に過ごしやすいよう気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、家庭で今まで使い慣れた家具や食器を持って来ていただき、自宅と近い雰囲気の中で安心して過ごしていただけるように心がけている。ご自宅では畳で過ごされていた方には畳で対応させていただいている。	家族の協力を得て、安心して過ごせる居室となるよう工夫している。各居室の入り口付近に本人の写真が飾られ、自分の居室だと認識できるようにしている。全室に、温度・湿度計、加湿器を設置して、空調に気を配っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要箇所に手すりを設置するほか、各居室の表札やトイレ、風呂などを分かりやすく貼り紙で案内している。どこに何があるのか分かることで安心して過ごしてもらえるよう配慮している。ポータブルトイレを設置し、自立した排泄を支援している。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	備蓄品のリストを作り、個数や各消費期限などわかるようにし、保管場所をわかりやすく整えることを期待する	備蓄品等の保管場所、保管内容を明確にし、災害時に備える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倉庫に購入を行い、整理整頓を行う</li> <li>・災害時備蓄品リストを作成</li> <li>・外箱に消費期限や内容、個数を記載する</li> </ul>	12ヶ月
2	40	メニュー作成や買い出し等の職員の負担が少なくなるよう、法人内のグループホーム全体で話し合い、調整してみてもどうか	食事支援に関する職員の負担軽減を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メニュー作成について、管理者会議で話し合いを行う</li> <li>・メニュー作成を法人内の管理栄養士に相談</li> <li>・食材の配達を検討</li> </ul>	12ヶ月
3	45	脱衣所の収納を工夫し、できるだけ介助しやすい空間となるように工夫してみてもどうか	入浴の介助がしやすい環境を整え、ご利用者様の入浴が安全で楽しいものになるよう取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷暖房器具を壁掛け式に変更し、スペースを確保する</li> <li>・洗剤等の収納を工夫し安全にも配慮しながら、介助しやすい環境を整える</li> </ul>	12ヶ月
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170300515		
法人名	社会福祉法人 みのり福祉会		
事業所名	インターグループホーム 天女		
所在地	鳥取県倉吉市福守町407-12		
自己評価作成日	令和2年10月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福祉の里内にあり、法人内の夏祭り、文化祭や保育園や隣接した母子寮との交流を行っています。地域との繋がりを大切に、多くの地域の方のご協力をいただきながら、ご利用者様の豊かな生活を目指しています。ご利用者様お一人お一人の持てる力や意思を尊重した支援を心がけ、外出や毎日の活動を提供しています。今年度は引き続きパラ園、畑で作物を育て、収穫し、食す楽しみを支援をしています。個人の趣味を活かした行事を開催し、今までの価値観や生活の楽しみを継続してもらえるよう取り組んでいます。ご利用者様はもちろんのこと、職員に体調管理や行動の確認を行い、今年度は特に感染症予防対策に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

別紙参照

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に事業所理念を唱和している。また各、フロアごとに理念を基にした1年間の目標を見えやすく掲示し、日々意識して実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は、法人主体の福祉の里夏祭りや秋の文化祭で交流を持っている。地域のサロンからハンドマッサージのボランティア、草取りのボランティアの受け入れを行っているが、現在は感染症予防のため中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の認知症理解の為に絵本教室にアドバイザーとして参加したり、事業体験ボランティアの受け入れ募集をおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催していたが、現在は感染症予防のため報告書のみ関係機関等に送付している。施設内での活動報告やヒヤリハット等の報告を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	1か月に1度市役所から介護相談員の訪問を受け入れていたが、現在は感染症予防のため受け入れを中止している。にっこりの会への協力を行い、市との関係性築くよう心掛けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の年間勉強会の中に毎年組み込んでいる。また、外部研修にも参加し、最新の情報を取り入れ職員会議の時に報告している。身体拘束廃止委員での話し合いも定期的に行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の年間勉強会の中に毎年組み込んでいる。動画や事例などを用いて、わかりやすく、記憶に残る活きた勉強会になるよう工夫している。言葉使いについては目標にも掲げ、意識をしながらその都度話し合い、意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所の年間勉強会の中に毎年組み込んでいる。権利擁護についてのマニュアルを作成しておりいつでも閲覧できるようになっている。担当職員が自身で調べ、まとめた資料を用いて勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書と契約書をお渡しして必ず説明を行っている。不安や疑問が無くか尋ね、納得していただいてから契約を結んでいる。遠方の方に関しては、電話連絡をこまめに行い、納得していただけるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しているが利用はない。カンファレンスや面会等に意見を伺っている。また、ご家族様を対象とした満足度調査を毎年実施しており、いただいた意見を運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務時間内や職員会で意見交換している。話しやすい環境、関係性を築くために一人一人意識してコミュニケーションをとるよう気を付けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特定処遇改善により有資格者の給与水準が向上した。法人で子育て支援を行っており、子育て中の職員も働きやすいよう、勤務調整を行っている。介護や育児に対して、必要時は調整を行い、職員個々が働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の内部研修は管理者・中堅職員・初任者等で開催されるので、現状に即した研修内容となっている。資格取得に向けての勤務調整等を行い、職員を育成し、資質向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の相互研修に参加している。研修最終日には、ケアの悩み等を話し合い、お互いがどう支援しているかを理解し、質の向上につなげている。認知症の絵本教室では、多数の同業者が参加しており、意見交換の場となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行いご本人と話をさせてもらっている。入所されてからも、以前の施設へ遊びに行くなどして、安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはホーム見学を通して、施設の雰囲気を感じていただいている。どんなことに困っておられるのか、要望等を丁寧に傾聴している。また、入所までの苦勞に共感し、労いの言葉掛けを忘れないよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、申し込み時に必要であれば、他のサービスの提案ができるように他施設のパンフレット等を用意し、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までされていたことをアセスメントし、家事や畑作活動の提供を行っている。役割を持っていただくことで、意欲的に生活を送っていただけるように支援を行っている。感謝を伝えることで施設にとって必要な存在であることを認識してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来所された時や、カンファレンス時には心身の状態を近況報告している。状態に変化があった時はご家族の希望をお聞きし共に支援できるように努めている。通院支援や散髪外出などでご家族様にご協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り、今までのかかりつけ病院を受診したり、自宅近所の行きつけの理容室へ定期的に散髪を支援している。地元の歯科医などの受診も実施している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルにも配慮し、孤立しないように支援している。お互いが関わり合いが持てるよう同じ場所での家事活動や作品づくりなどの活動を提供し、共に支えあえる関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院やご自宅に帰られた後の連絡・相談等の支援を行っている。退所後行き場所に困られないように柔軟に対応している。退所後、別の事業所へ行き、経過をみさせていただくこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から本人の希望が聞き取れるよう努めている。カンファレンス時には家族の意向も把握しながら、本人本位の支援に努めている。また、月1回のフロア会議で話し合い、ご本人様の思いの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の聞き取り時に本人、家族からの話を聞き、今までの生活状況を尊重し、できる限りサービスに反映させている。サービス評価表にわたしのことという欄があり、毎月の評価時に新しい情報や気づきを記載して把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送り等で一人ひとりの状態を把握し、情報共有している。気が付いたこと、変化があったことはケース記録に記載している。特記・引継ぎ事項の欄があり、全職員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一度のカンファレンスはご本人様、家族様と行っているが、現在は面会の制限を行っているため、ご家族には電話にて要望をお聞きしている。担当者より今の状態を説明し、医師の意見等も合わせて、より良いサービスが提供できるようケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況や変化等を記録に残し、朝、夕の申し送りで職員の情報共有をしている。また、ケアプランに対して担当者が実行記録評価表を記入し、1か月単位で評価し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、通院の支援など時間にとらわれずに、柔軟に対応できるよう心掛けている。ご本人様の趣味を活かし、魚釣り大会を開催するなど、新しいことにも挑戦している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで長寿社会課、地域包括支援センター、民生児童委員、福守町の館長さんなどから情報をもらって活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者1人ひとりのかかりつけ医を把握し、受診時は職員、またはご家族が同行している。何かあれば主治医に連絡するとともにご家族にも連絡し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師は配置していないので、利用者に変化があった場合、法人内の看護師に連絡相談するか、主治医に相談している。また、月2回の訪問診療をしてもらい健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要物品を揃えたり、洗濯の支援を行っており、その都度、情報を提供してもらっている。早期の退院となるよう、随時医療関係者と連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについてのマニュアルやご家族様へ対して説明文章、承諾書等を作成した。重度化へ向けて、体調に変化があった場合は、ご家族様へこまめに連絡を行い、情報を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の事故マニュアルを元に勉強会を行っている。毎年1回は消防署に来てもらい、AEDの使い方、心肺蘇生法の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定、火災、水害、地震などを想定して、避難訓練を行っており、職員全員が参加できるようにしている。1年に一度は隣施設と共同の避難訓練を実施しており、非常時には協力体制が取れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについてはフロアー目標に入れている。声のトーンや言い方に気をつけるよう配慮している。接遇マニュアルを用いて、法人内研修に参加し、担当者から職員に周知している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が行きたいところや、食べたいものなど話しやすい雰囲気作りをし、自己決定ができるように心がけている。うまく表現できない方は表情や行動を読み取り、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を見たり、聞いたりしながらその方のペースに合わせている。ご本人の意向を優先し、声かけのタイミングや職員を交代してみたりと、工夫して支援を行っている。時間をずらして食事を提供するなど柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に温かいおしぼりの提供や個々に散髪外出を支援している。衣類を選んでいただいたり、髭剃りを支援することで、いつまでもおしゃれに過ごしていただけるように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回のおまかせメニューを始め、日々の希望を聞いて献立の参考にしている。食材の下準備をしていただくことで、より食事に関心を持っていただき、楽しんでもらえるよう支援している。嫌いなものがある場合は別メニューで提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人に必要な水分量を計算し提供している。食事の栄養や形状についても、トロミ・きざみ・ゼリー等の工夫をして体調、病態にあわせ、食事を提供している。毎月体重測定をして増減を把握している。フロアー会議にて、嚥下状態等をみながら、食事形態の検討を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、ご自分でできない方はお手伝いしている。就寝時には、入れ歯洗浄剤を使用したり、口腔ウエットティッシュを使用することで、口腔内の清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して排泄パターンを知り、早めの声かけ、案内でパットの使用を減らすよう心がけている。立位困難な方にも、トイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼食前にラジオ体操を取り入れたり、食物繊維の多い食品や牛乳、カスピ海ヨーグルトを摂ってもらうことで、便秘予防に取り組んでいる。腹部のマッサージで排泄を促す支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間に入りたいとの要望があり、ほぼ毎日入浴していただけるよう支援している。気分が乗らない方があれば、職員を交代したり、日にちを変えることで無理のない支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早めに休まれる方、遅くまでテレビを見られる方、職員と会話を楽しみたい方など、様々なご利用者様がいらっしゃるため、お好きな時間まで楽しんでいただき、お好きな時間に自室で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬剤情報が綴っており、いつでも確認が可能となっている。処方内容が変わったときは、引き継ぎをノートに記録し確認、把握できるように努めている。薬について、気になることがあれば、主治医や薬剤師に都度確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自宅で続けておられた畑での野菜づくりを継続できるよう、種苗店への買い物等を支援している。今までに育てとことがない野菜にも挑戦されるようになり、楽しみを増やすことに繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の意向を確認しながら外出の支援を行っている。親類の経営する理容店に散髪に行かれたり、姉妹に会いに病院へ行かれる際の支援等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設預かりしているが、希望の方は少額持っておられ管理されている。本人の希望を確認しながら、買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より電話の依頼があるので、いつでも連絡できるよう支援している。ご家族から電話やテレビ電話の要望があり、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の温度・湿度計を確認しながら、換気や室温調節を行い、過ごしやすい空間づくりをしている。ロールカーテンを使用し日差しの調整や温度にも配慮している。各居室に加湿器を設置し、居室の温度にも配慮している。テレビのボリュームや会話などのトーンにも配慮し、不快感がないよう気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格や習慣を考慮し、食事の席やソファでの居場所を工夫している。仲の良い方同士と一緒に過ごしやすいよう気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、家庭で今まで使い慣れた家具や食器を持って来ていただき、自宅と近い雰囲気の中で安心して過ごしていただけるように心がけている。自宅で育てておられた鉢植を置いたりすることで居心地よく過ごせる環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要箇所に手すりを設置するほか、各居室の表札やトイレ、風呂などを分かりやすく貼り紙で案内している。どこに何があるのか分かることで安心して過ごしてもらえるよう配慮している。ポータブルトイレを設置し、自立した排泄を支援している。		